



サーバのインストール

- [設置の準備](#) (1 ページ)
- [ラックへのサーバの設置](#) (5 ページ)
- [サーバの初期設定](#) (9 ページ)
- [NIC モードおよび NIC 冗長性設定](#) (15 ページ)
- [BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新](#) (16 ページ)
- [システム BIOS へのアクセス](#) (16 ページ)
- [スマート アクセス \(シリアル\)](#) (17 ページ)
- [スマート アクセス \(USB\)](#) (17 ページ)

設置の準備

ここでは、次の内容について説明します。

設置に関する警告およびガイドライン



- (注) サーバの設置、操作、または保守を行う前に、『[規制コンプライアンスと安全性情報](#)』を参照して重要な安全情報を確認してください。
-



警告 安全上の重要な注意事項

この警告マークは「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

ステートメント 1071



警告 システムの過熱を防ぐため、最大推奨周囲温度の 35°C (95°F) を超えるエリアで操作しないでください。

ステートメント 1047



警告 いつでも装置の電源を切断できるように、プラグおよびソケットにすぐ手が届く状態にしておいてください。

ステートメント 1019



警告 装置は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。

ステートメント 1074



警告 この装置は、立ち入りが制限された場所への設置を前提としています。立ち入りが制限された場所とは、特殊な器具、錠と鍵、またはその他の保安手段を使用しないと入れない場所を意味します。

ステートメント 1017



警告 この製品は設置する建物に回路短絡（過電流）保護機構が備わっていることを前提に設計されています。保護デバイスの定格電流が 20A（北米）、16A（ヨーロッパ）、および 13A（英国）を超えていないことを確認します。

ステートメント 1005



注意 サーバを取り付ける際は、適切なエアフローを確保するために、レールキットを使用する必要があります。レールキットを使用せずに、ユニットを別のユニットの上に物理的に置く、つまり「積み重ねる」と、サーバの上部にある通気口がふさがれ、過熱したり、ファンの回転が速くなったり、電力消費が高くなったりする原因となる可能性があります。サーバをラックに取り付けるときは、これらのレールによりサーバ間で必要な最小の間隔が提供されるので、レールキットにサーバをマウントすることを推奨します。レールキットを使用してユニットをマウントする場合は、サーバ間の間隔を余分にとる必要はありません。



注意 鉄共振技術を採用している無停電電源装置（UPS）は使用しないでください。このタイプのUPSは、Cisco UCSなどのシステムに使用すると、データトラフィックパターンの変化によって入力電流が大きく変動し、動作が不安定になるおそれがあります。



注意 入力電力の損失を防ぐには、スイッチに電力を供給する回路上の合計最大負荷が、配線とブレーカーの定格電流の範囲内となるようにしてください。

サーバを設置する際には、次のガイドラインに従ってください。

- サーバを設置する前に、設置場所の構成を計画し、設置環境を整えます。
- サーバの周囲に、サーバへのアクセスおよび適切な通気のための十分なスペースがあることを確認します。サーバ内では前面から背面へ空気が流れます。
- 空調が、[環境仕様](#)に記載された温度要件に適合していることを確認します。
- キャビネットまたはラックが、[ラックに関する要件（4 ページ）](#)に記載された要件に適合していることを確認します。
- 設置場所の電源が、[電力仕様](#)に記載された電源要件に適合していることを確認します。使用可能な場合は、電源障害に備えて無停電電源装置（UPS）を使用してください。

アース要件

スイッチは、電源によって供給される電圧の変動の影響を受けます。過電圧、低電圧、および過渡電圧（またはスパイク）によって、データがメモリから消去されたり、コンポーネントの障害が発生するおそれがあります。このような問題から保護するために、スイッチにアース接続があることを確認してください。スイッチのアースパッドは、アース接続に直接接続するか、完全に接合されてアースされたラックに接続できます。

アースされたラックに正しくシャーシを取り付けている場合、スイッチはラックに金属間接続されているためアースされています。または、お客様が準備したアースケーブルを使用してシャーシをアースすることもできます。その場合、地域および国の設置要件を満たすアースケーブルを使用する必要があります（米国での設置の場合は6 AWG ワイヤを推奨）、アースラグ（スイッチのアクセサリキットで提供）を使ってシャーシに接続してから設置場所のアースに接続します。



(注) AC電源に接続すると、AC電源モジュールが自動的にアースされます。DC電源モジュールの場合、電源モジュールをDC電源に配線するときにアース線を接続する必要があります。

ラックに関する要件

次のタイプのラックを使用する必要があります。

- 標準的な 19 インチ (48.3 cm) 幅 4 支柱 EIA ラック (ANSI/EIA-310-D-1992 のセクション 1 に準拠した英国ユニバーサル ピッチに適合するマウント支柱付き)。
- 付属のシスコ製スライド レールを使用する場合、ラック支柱の穴は、9.6 mm (0.38 インチ) の正方形、7.1 mm (0.28 インチ) の丸形、#12-24 UNC、または #10-32 UNC になります。
- サーバあたりの縦方向の最小ラック スペースは、1 ラック ユニット (RU)、つまり 44.45 mm (1.75 インチ) である必要があります。

サポートされるシスコ製スライド レール キット

サーバは、次のレール キットをサポートします。

- シスコ製品 UCSC-RAILB-M4= (ボールベアリング スライド レール キット)。

ラックの設置に必要な工具

シスコが販売するこのサーバ用のスライド レールの場合、設置に必要な工具はありません。

スライド レールおよびケーブル マネジメント アームの寸法

このサーバのスライド レールの調整範囲は 24 ~ 36 インチ (610 ~ 914 mm) です。

オプションのケーブル マネジメント アーム (CMA) を使用する場合、長さの要件がさらに追加されます。

- サーバの背面から CMA の背面までの距離は、137.4 mm (5.4 インチ) 追加されます。
- CMA を含むサーバの全長は 35.2 インチ (894 mm) です。

ラックへのサーバの設置



警告 ラックにこの装置をマウントしたり、ラック上の装置の作業を行うときは、ケガをしないように、装置が安定した状態に置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

ラックに設置する装置が1台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。

ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。

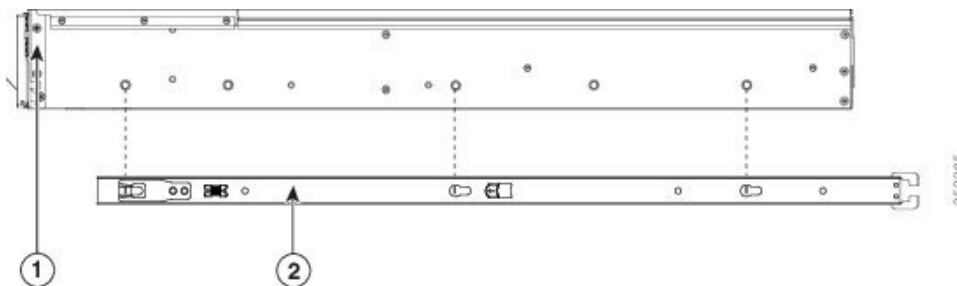
ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。

ステートメント 1006

ステップ1 サーバの側面に内側レールを装着します。

- レール内の3つのキー付きスロットがサーバ側面の3個のペグの位置に合うように、内側レールをサーバの一方の側の位置に合わせます。
- キー付きスロットをペグに設定し、レールを前面に向けてスライドさせて、ペグの所定の位置にロックします。前面スロットには、前面ペグにロックするための金属製クリップがあります。
- 2つ目の内側レールをサーバの反対側に取り付けます。

図 1: サーバ側面への内側レールの取り付け

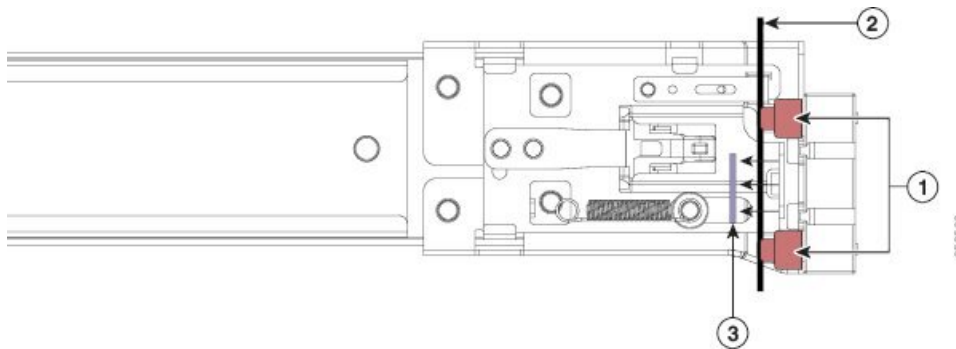


1	サーバの前面	2	内側レール
---	--------	---	-------

ステップ2 両方のスライドレール部品で前面の固定プレートを開きます。スライドレール部品の前端に、バネ仕掛けの固定プレートがあります。取り付けペグをラック支柱の穴に挿入する前に、この固定プレートが開いている必要があります。

部品の外側で、背面を向いている緑色の矢印ボタンを押して、固定プレートを開きます。

図 2: 前面の固定部分、前端の内側



1	前面側の取り付けペグ	3	開いた位置に引き戻された固定プレート
2	取り付けペグと開いた固定プレートの間のラック支柱	-	

ステップ 3 外側のスライド レールをラックに取り付けます。

- a) 片側のスライド レール部品の前端を、使用する前面ラック支柱の穴の位置に合わせます。

スライド レールの前部がラック支柱の外側を回り込むように配置され、取り付けペグが外側の前部からラック支柱の穴に入ります。

(注) ラック支柱は、取り付けペグと開いた固定プレートの間にある必要があります。

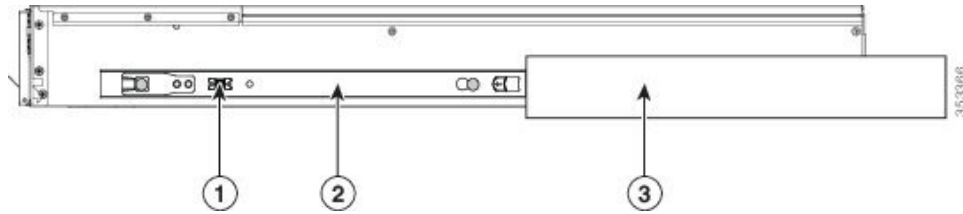
- b) 取り付けペグを、外側前面からラック支柱の穴に押し込みます。
- c) 「PUSH」のマークが付いた固定プレートのリリース ボタンを押します。ばね仕掛けの固定プレートが閉じて、ペグが所定の位置にロックされます。
- d) スライド レールの長さを調整したら、背面取り付けペグを対応する背面ラック支柱の穴に差し込みます。スライド レールは前面から背面に向かって水平である必要があります。
- 背面取り付けペグを、ラック支柱の内側から背面ラック支柱の穴に入れます。
- e) 2つ目のスライド レール部品を、ラックの反対側に取り付けます。2つのスライド レール部品が同じ高さであり、水平になっていることを確認します。
- f) 所定の位置に収まって留まるまで、各部品の内側のスライド レールをラック前方へ引き出します。

ステップ 4 サーバを次のようにスライド レールに装着します。

注意 このサーバは、コンポーネントがフルに搭載されている場合、最大で 29 kg (64 ポンド) の重量になります。サーバを持ち上げるときは、2人以上で行うか、リフトを使用することを推奨します。この手順を1人で実行しようとする、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。

- a) サーバの側面に装着されている内側レールの後端を、ラック上の空のスライド レールの前端の位置に合わせます。
- b) 内部の停止位置で止まるまで、内側レールをラック上のスライド レールに押し込みます。
- c) 両方の内側レールで内側レール リリース クリップを背面に向けてスライドさせたら、前面のスラム ラッチがラック支柱に収まるまで、サーバをラックに押し込みます。

図 3: 内側レール リリース クリップ



1	内側レール リリース クリップ	3	ラック支柱に装着されている外側スライドレール
2	サーバに装着され、外側のスライドレールに挿入されている内側レール	-	

ステップ 5 (任意) スライドレールに付属の 2 本のネジを使用して、サーバをさらに確実にラックに固定します。サーバを取り付けたラックを移動する場合は、この手順を実行します。

サーバをスライドレールに完全に押し込んだ状態で、サーバ前面のヒンジ付きスラムラッチのレバーを開き、レバーの下にある穴からネジを挿入します。ネジがラック支柱のレールの静止部分に挿入され、サーバが引き抜かれるのを防ぎます。反対のスラムラッチについても行ってください。

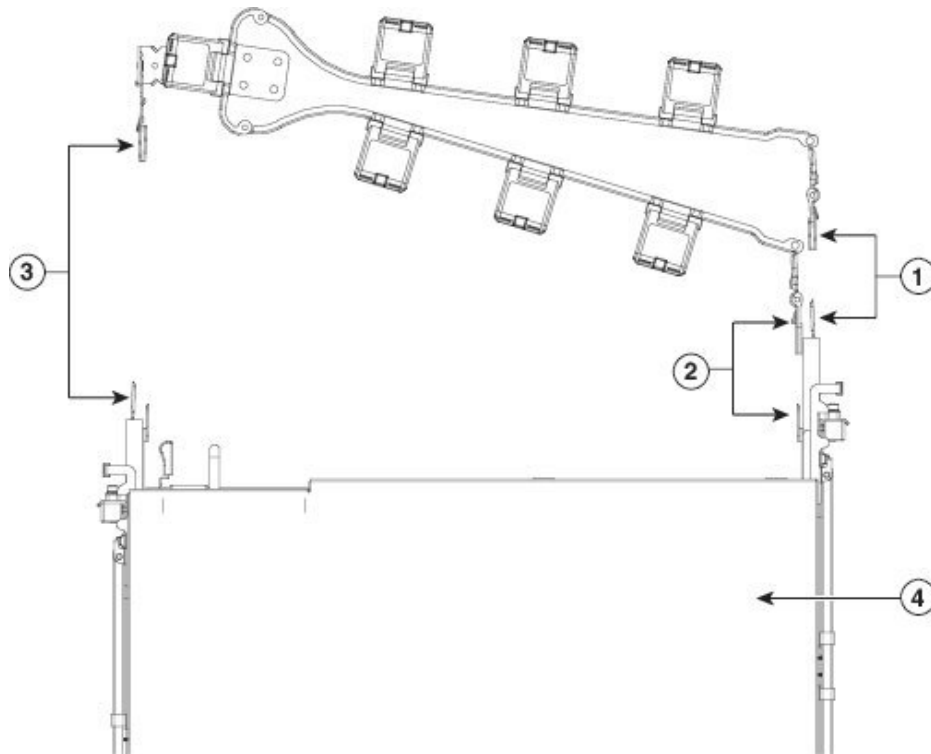
ケーブル マネジメント アームの取り付け (任意)



(注) ケーブルマネジメントアーム (CMA) は、左右を逆にして取り付けることができます。CMA を逆に取り付けるには、取り付ける前に [ケーブルマネジメントアームを逆に取り付け \(任意\) \(9 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 1 サーバをラックに完全に押し込んだ状態で、サーバから最も離れた CMA アームの CMA タブを、ラック支柱に取り付けられている固定スライドレールの終端に押し込みます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。

図 4: スライドレール後端への CMA の取り付け



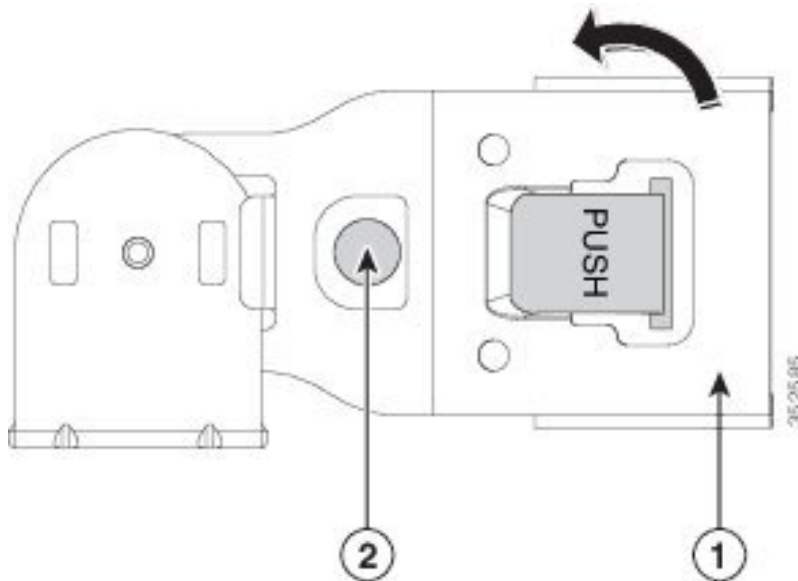
1	サーバから最も離れたアームの CMA タブは、外側の固定スライドレールの終端に取り付けます。	3	幅調整スライダの CMA タブは、外側の固定スライドレールの終端に取り付けます。
2	サーバに最も近いアームの CMA タブは、サーバに装着された内側のスライドレールの終端に取り付けます。	4	サーバ背面

- ステップ 2** サーバに最も近い CMA タブを、サーバに取り付けられている内側レールの終端に押し込みます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- ステップ 3** CMA アセンブリの反対側の終端にある幅調整スライダを、ラックの幅まで引き出します。
- ステップ 4** 幅調整スライダの終端にある CMA タブを、ラック支柱に取り付けられている固定スライドレールの終端に押し込みます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- ステップ 5** 各プラスチック製ケーブルガイドの上部でヒンジ付きフラップを開き、必要に応じてケーブルガイドを通してケーブルを配線します。

ケーブル マネジメント アームを逆に取り付け（任意）

- ステップ 1** CMA アセンブリ全体を、左から右へ 180 度回転させます。プラスチック製ケーブル ガイドは、上を向いたままにしておく必要があります。
- ステップ 2** サーバの背面を向くように、CMA アームの終端でタブを反転させます。
- ステップ 3** 幅調整スライダの終端にあるタブを回転させます。タブの外側の金属ボタンを長押しし、サーバの背面を向くようにタブを 180 度回転させます。

図 5: CMA の反転



1	幅調整スライダの終端の CMA タブ	2	タブの外側の金属ボタン
---	--------------------	---	-------------

サーバの初期設定



- (注) ここでは、サーバをスタンドアロン モードで使用する場合のサーバの電源投入方法、IP アドレスの割り当て方法、サーバ管理への接続方法について説明します。

サーバのデフォルト設定

サーバは次のデフォルト設定で出荷されます。

- NIC モードは *Shared LOM EXT* です。

Shared LOM EXT モードでは、1 Gb/10 Gb イーサネットポートおよび取り付け済みの Cisco 仮想インターフェイスカード (VIC) 上のすべてのポートが、Cisco Integrated Management Interface (Cisco IMC) にアクセスできます。10/100/1000 専用管理ポートを使用して Cisco IMC にアクセスする場合は、[Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ \(13 ページ\)](#) の説明に従って、サーバに接続して NIC モードを変更できます。

- NIC の冗長性はアクティブ-アクティブです。すべてのイーサネットポートが同時に使用されます。
- DHCP は有効になっています。
- IPv4 は有効です。

接続方法

システムに接続して初期設定を行うには、次の 2 つの方法があります。

- ローカル設定：キーボードとモニタをシステムに直接接続して設定を行う場合は、この手順を使用します。この手順では、KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) またはサーバの背面にあるポートが使用できます。
- リモート設定：専用管理 LAN 経由で設定を行う場合は、この手順を使用します。



(注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上に DHCP サーバが存在する必要があります。このサーバノードの MAC アドレスの範囲を、DHCP サーバにあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスは、前面パネルの引き抜きアセットタグにあるラベルに印字されています。このサーバノードでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

ここでは、次の内容について説明します。

ローカル接続によるサーバの設定

この手順には、次の機器が必要です。

- VGA モニタ
- USB キーボード
- サポートされている Cisco KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM)、または USB ケーブルと VGA DB-15 ケーブル

ステップ 1 電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次に、接地された電源コンセントに各コードを接続します。

初回のブート時には、サーバが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約2分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータスLEDで確認できます。LEDがオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

ステップ2 次のいずれかの方法を使用して、USB キーボードと VGA モニタをサーバに接続します。

- オプションの KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) を前面パネルの KVM コネクタに接続します。USB キーボードと VGA モニタを KVM ケーブルに接続します。
- USB キーボードと VGA モニタを背面パネルの対応するコネクタに接続します。

ステップ3 Cisco IMC 設定ユーティリティを開きます。

- a) 前面パネルの電源ボタンを4秒間長押しして、サーバを起動します。
- b) ブートアップ時に、Cisco IMC 設定ユーティリティを開くよう求められたら **F8** を押します。

(注) Cisco IMC 設定ユーティリティを初めて開始すると、デフォルトのパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。デフォルトパスワードは *password* です。強力なパスワード機能が有効になっています。

強力なパスワードの要件は、次のとおりです。

- パスワードは最低8文字、最大14文字とすること。
- パスワードにユーザ名を含めないこと。
- パスワードには次の4つのカテゴリの中から3つに該当する文字を含めること。
 - 大文字の英字 (A ~ Z)
 - 小文字の英字 (a ~ z)
 - 10進数の数字 (0 ~ 9)
 - 非アルファベット文字 (!, @, #, \$, %, ^, &, *, -, _, =, ")。

ステップ4 Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ (13 ページ) に進みます。

リモート接続によるサーバの設定

この手順には、次の機器が必要です。

- 管理 LAN に接続された RJ-45 イーサネット ケーブル X 1。

始める前に



- (注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上にDHCPサーバが存在する必要があります。このサーバノードのMACアドレスの範囲を、DHCPサーバにあらかじめ設定しておく必要があります。MACアドレスは、前面パネルの引き抜きアセットタグにあるラベルに印字されています。このサーバノードでは、Cisco IMCに6つのMACアドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されているMACアドレスは、6つの連続MACアドレスのうち最初のものです。

- ステップ1** 電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次に、接地された電源コンセントに各コードを接続します。
- 初回のブート時には、サーバが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約2分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータスLEDで確認できます。LEDがオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。
- ステップ2** 管理イーサネット ケーブルを背面パネルの専用管理ポートに差し込みます。
- ステップ3** 事前設定されたDHCPサーバで、サーバノードにIPアドレスを割り当てられるようにします。
- ステップ4** 割り当てられたIPアドレスを使用して、サーバノードのCisco IMCにアクセスし、ログインします。IPアドレスを特定するには、DHCPサーバの管理者に相談してください。
- (注) サーバのデフォルトのユーザ名は *admin*、デフォルトパスワードは *password* です。
- ステップ5** Cisco IMCサーバの [Summary] ページで、[Launch KVM Console] をクリックします。別のKVMコンソールウィンドウが開きます。
- ステップ6** Cisco IMC の [Summary] ページで、[Power Cycle Server] をクリックします。システムがリブートします。
- ステップ7** KVMコンソールウィンドウを選択します。
- (注) 次のキーボード操作を有効にするには、KVMコンソールウィンドウがアクティブウィンドウである必要があります。
- ステップ8** プロンプトが表示されたら、F8を押して、Cisco IMC設定ユーティリティを起動します。このユーティリティは、KVMコンソールウィンドウで開きます。
- (注) Cisco IMC設定ユーティリティを初めて開始すると、デフォルトのパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。デフォルトパスワードは *password* です。強力なパスワード機能が有効になっています。

強力なパスワードの要件は、次のとおりです。

- パスワードは最低8文字、最大14文字とすること。
- パスワードにユーザ名を含めないこと。
- パスワードには次の4つのカテゴリの中から3つに該当する文字を含めること。
 - 大文字の英字 (A ~ Z)

- 小文字の英字 (a ~ z)
- 10 進数の数字 (0 ~ 9)
- 非アルファベット文字 (!, @, #, \$, %, ^, &, *, -, _, =, ")。

ステップ 9 Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ (13 ページ) に進みます。

Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ

始める前に

システムに接続して Cisco IMC 設定ユーティリティを開いた後に、次の手順を実行します。

ステップ 1 NIC モードを設定して、サーバ管理用の Cisco IMC へのアクセスに使用するポートを選択します。

- **[Shared LOM EXT]** (デフォルト) : これは、工場出荷時設定の Shared LOM 拡張モードです。このモードでは、Shared LOM インターフェイスと Cisco Card インターフェイスの両方がイネーブルです。次のステップで、NIC 冗長性設定にデフォルトの **[Active-Active]** を選択する必要があります。
NIC モードでは、DHCP 応答が Shared LOM ポートと Cisco カードポートの両方に返されます。サーバがスタンドアロンモードであるために、Cisco カード接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco カードからのその後の DHCP 要求はディセーブルになります。スタンドアロンモードで Cisco カードを介して Cisco IMC に接続する場合は、Cisco Card NIC モードを使用します。
- **[Shared LOM]** : Cisco IMC へのアクセスに 1 Gb/10 Gb イーサネットポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に **[Active-Active]** または **[Active-standby]** を選択する必要があります。
- **[Dedicated]** : Cisco IMC へのアクセスに専用管理ポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に **[None]** を選択する必要があります。
- **[Cisco Card]** : Cisco IMC へのアクセスに取り付け済みの Cisco UCS 仮想インターフェイスカード (VIC) のポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に **[Active-Active]** または **[Active-standby]** を選択する必要があります。
必須の VIC スロットの設定も下記で参照してください。
- **[VIC Slot]** : Cisco Card NIC モードを使用する場合にのみ、VIC を取り付けた場所に合わせて、この設定を選択する必要があります。Riser1、Riser2、または Flex-LOM (mLOM スロット) のいずれかを選択します。
 - **[Riser1]** を選択した場合は、スロット 1 に VIC を取り付ける必要があります。
 - **[Riser2]** を選択した場合は、スロット 2 に VIC を取り付ける必要があります。
 - **[Flex-LOM]** を選択した場合は、mLOM スロットに mLOM タイプの VIC を取り付ける必要があります。

ステップ 2 必要に応じて、NIC 冗長性を設定します。このサーバでは、次の 3 つの NIC 冗長性設定を行うことができます。

- **[None]** : イーサネット ポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。
- **[Active-standby]** : アクティブなイーサネット ポートに障害が発生した場合、スタンバイ ポートにトラフィックがフェールオーバーします。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ **[Active-standby]** と **[Active-active]** の設定を使用できます。
- **[Active-active]** (デフォルト) : すべてのイーサネット ポートが同時に使用されます。Shared LOM EXT モードでは、この NIC 冗長性設定のみを使用する必要があります。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ **[Active-standby]** と **[Active-active]** の設定を使用できます。

ステップ 3 ダイナミック ネットワーク設定用に DHCP をイネーブルにするか、スタティック ネットワーク設定を開始するかを選択します。

(注) DHCP をイネーブルにするには、DHCP サーバにこのサーバの MAC アドレスの範囲をあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスはサーバ背面のラベルに印字されています。このサーバでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

静的 IPv4 および IPv6 設定には次が含まれます。

- Cisco IMC の IP アドレス。
IPv6 の場合、有効な値は 1 ~ 127 です。
- ゲートウェイ。
IPv6 の場合、ゲートウェイが不明な場合は、:: (コロン 2 つ) を入力して **none** のままに設定することができます。
- 優先 DNS サーバアドレス。
IPv6 の場合、:: (コロン 2 つ) を入力してこれを **none** のままに設定することができます。

ステップ 4 (任意) VLAN の設定を行います。

ステップ 5 F1 を押して 2 番目の設定ウィンドウに移動したら、次のステップに進みます。

2 番目のウィンドウで **F2** を押すと、最初のウィンドウに戻ることができます。

ステップ 6 (任意) サーバのホスト名を設定します。

ステップ 7 (任意) ダイナミック DNS をイネーブルにし、ダイナミック DNS (DDNS) ドメインを設定します。

ステップ 8 (任意) **[Factory Default]** チェックボックスをオンにすると、サーバは出荷時の初期状態に戻ります。

ステップ 9 (任意) デフォルトのユーザ パスワードを設定します。

(注) サーバのデフォルトのユーザ名は **admin** です。デフォルト パスワードは **password** です。

ステップ 10 (任意) ポート設定の自動ネゴシエーションをイネーブルにするか、ポート速度およびデュプレックスモードを手動で設定します。

(注) 自動ネゴシエーションは専用 NIC モードを使用する場合にのみ使用できます。自動ネゴシエーションはサーバが接続されているスイッチ ポートに基づいて自動的にポート速度およびデュプレックス モードを設定します。自動ネゴシエーションをディセーブルにした場合、ポート速度およびデュプレックス モードを手動で設定する必要があります。

ステップ 11 (任意) ポート プロファイルとポート名をリセットします。

ステップ 12 F5 を押して、行った設定に更新します。新しい設定が表示され、メッセージ「Network settings configured」が表示されるまでに約 45 秒かかる場合があります。その後、次の手順でサーバを再起動します。

ステップ 13 F10 を押して設定を保存し、サーバを再起動します。

(注) DHCP のイネーブル化を選択した場合、動的に割り当てられた IP アドレスと MAC アドレスがブートアップ時にコンソール画面に表示されます。

次のタスク

ブラウザと Cisco IMC の IP アドレスを使用して、Cisco IMC 管理インターフェイスに接続します。IP アドレスは、行った設定に基づいています (スタティック アドレスまたは DHCP サーバによって割り当てられたアドレス)。



(注) サーバのデフォルトのユーザ名は *admin* です。デフォルト パスワードは *password* です。

NIC モードおよび NIC 冗長性設定

表 1: 各 NIC モードに対する有効な NIC 冗長性設定

NIC モード	有効な NIC 冗長性設定
Shared LOM EXT	Active-active
Dedicated	なし
Shared LOM	Active-active Active-standby
Cisco Card	Active-active Active-standby

専用モードのみがサポートされます。

CIMC 設定ユーティリティで、CIMC を設定する際に、NIC モードを *Dedicated* に設定します。CIMC GUI で CIMC を設定後、以下のパラメータが設定されていることを確認します。

パラメータ (Parameters)	Settings
LLDP	VIC で無効
TPM Support	BIOS でイネーブル
TPM Enabled Status	イネーブル
所有権	所有する

BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新



注意 BIOS ファームウェアをアップグレードする場合、Cisco IMC ファームウェアも同じバージョンにアップグレードする必要があります。アップグレードしないと、サーバが起動しません。BIOS と Cisco IMC のファームウェアが一致するまで電源をオフにしないでください。オフにすると、サーバが起動しなくなります。

シスコは、BIOS、Cisco IMC、およびその他のファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアップグレードできるように支援するために、*Cisco Host Upgrade Utility* を提供しています。

サーバには、シスコが提供し、承認しているファームウェアが使用されています。シスコは、各ファームウェアイメージと共にリリース ノートを提供しています。ファームウェアを更新するには、いくつかの方法があります。

- **ファームウェアの更新に推奨される方法** : Cisco Host Upgrade Utility を使用して、Cisco IMC、BIOS、およびコンポーネントのファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアップグレードします。

最新のファームウェア リリースについては、『[Cisco Host Upgrade Utility Quick Reference Guide](#)』を参照してください。

- Cisco IMC の GUI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。
- Cisco IMC の CLI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。

システム BIOS へのアクセス

ステップ 1 ブート中にメッセージが表示されたら、F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティに切り替えます。

(注) このユーティリティの [Main] ページに、現在の BIOS のバージョンとビルドが表示されます。

- ステップ2** 矢印キーを使って、BIOS メニュー ページを選択します。
- ステップ3** 矢印キーを使って、変更するフィールドを反転表示にします。
- ステップ4** Enter キーを押して変更するフィールドを選択し、そのフィールドの値を変更します。
- ステップ5** Exit メニュー画面が表示されるまで右矢印キーを押します。
- ステップ6** Exit メニュー画面の指示に従って変更内容を保存し、セットアップユーティリティを終了します（または、F10 を押します）。Esc キーを押すと、変更内容を保存せずにユーティリティを終了できます。

スマートアクセス（シリアル）

このサーバは、スマートアクセス（シリアル）機能をサポートしています。この機能により、ホストのシリアルと Cisco IMC CLI を切り替えることができます。

- この機能には、次の要件があります。
 - サーバの背面パネルの RJ-45 シリアル コネクタ、または前面パネルの KVM コンソールコネクタで DB-9 接続（KVM ケーブル（Cisco PID N20-BKVM）を使用する場合）を使用することができる、シリアル ケーブル接続。
 - サーバの BIOS でコンソールリダイレクションを有効にする必要があります。
 - 端末タイプは、VT100+ または VTUFT8 に設定する必要があります。
 - Serial over LAN（SoL）を無効にする必要があります（SoL はデフォルトで無効になっています）。

- ホストのシリアルから Cisco IMC CLI に切り替えるには、Esc キーを押した状態で 9 キーを押します。

接続を認証するために Cisco IMC クレデンシャルを入力する必要があります。

- Cisco IMC CLI からホストのシリアルに切り替えるには、Esc キーを押した状態で 8 キーを押します。



（注） Serial over LAN（SoL）機能が有効になっている場合は、Cisco IMC CLI に切り替えることができません。

- セッションが作成されると、CLI または Web GUI に `serial` という名前が表示されます。

スマートアクセス（USB）

このサーバは、スマートアクセス（USB）機能をサポートしています。このサーバのボード管理コントローラ（BMC）は、大容量の USB ストレージデバイスに対応しており、そのデータ

にアクセスすることができます。この機能では、前面パネルの USB デバイスをメディアとして使用して、ネットワーク接続を必要とせずに BMC とユーザ間でデータを転送できます。これは、リモート BMC インターフェイスがまだ利用可能でない場合や、ネットワークの不良構成によりリモート BMC インターフェイスにアクセスできない場合などに役立ちます。

- この機能には、次の要件があります。
 - 前面パネルの KVM コンソール コネクタに接続された KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM)。
 - KVM ケーブルのいずれかの USB 2.0 コネクタに接続された USB ストレージデバイス。電流保護回路による切断を避けるため、USB デバイスの電流消費は 500 mA 未満である必要があります。



(注) KVM ケーブルに接続されているマウスまたはキーボードは、スマートアクセス (USB) を有効にすると切断されます。

- USB 3.0 ベースのデバイスを使用できますが、デバイスは USB 2.0 の速度で動作します。
- USB デバイスには 1 つのパーティションのみを設定することをお勧めします。
- サポートされているファイル システム形式は、FAT16、FAT32、MSDOS、EXT2、EXT3、および EXT4 です。NTFS はサポートされません。
- 前面パネルの KVM コネクタは、ホスト OS と BMC 間で USB ポートを切り替えるように設計されています。
- スマートアクセス (USB) は、いずれかの BMC ユーザーインターフェイスを使用して有効または無効にすることができます。たとえば、ブートアップ中にメッセージが表示されたときに F8 を押すことにより、Cisco IMC 設定ユーティリティを使用できます。
 - 有効時：前面パネルの USB デバイスは BMC に接続されています。
 - 無効時：前面パネルの USB デバイスはホストに接続されています。
- 管理ネットワークを使用してリモートで Cisco IMC に接続できない場合は、シリアルケーブルを介してデバイス ファームウェア アップデート (DFU) シェルを使用してテクニカル サポート ファイルを生成し、前面パネルの USB ポートに装着されている USB デバイスにダウンロードすることができます。